

編集発行

川口市議会議員

宇田川 好秀

埼玉県川口市安行1117

TEL.048-294-3131

FAX.048-296-7070

印刷/コスモブリッツ株式会社

【討議資料】

うだがわよしひで

緑豊かな街づくり

宇田川好秀

市議会ニュース

vol.108(2023年1月)



川口市立医療センターへ 手術支援ロボットの導入を求めます

手術支援ロボットの導入について

1. 目的

医療センターでは、手術支援ロボットについて、患者の身体的な負担が少ない腹腔鏡下手術の特徴を生かしつつ、ロボットの機能の支援によって、従来不可能とされていた手術操作が可能となるなどの理由を踏まえ導入を検討しています。

導入が可能となれば、傷口が小さい・術中の出血が少ない・術後の疼痛が少なく、回復も早い・術後合併症のリスクが低いなど、患者に大きなメリットが期待できます。

また、初期研修医においてはロボット手術支援が出来ることが病院選びの一つの条件となっている状況も踏まえ、早期の導入が求められるものです。

2. 導入を求める診療科

●泌尿器科、消化器外科

3. 導入を求める機種とその理由

機種 インテュイティブサージカル社(米国)製 ダビンチ Xi

理由 当該機種は、既に国内で450台以上運用されており、保険適用は、泌尿器科領域を筆頭に消化器外科(胃、大腸、食道、肝胆膵)、婦人科、心臓外科、呼吸器外科領域において急速な広がりをみせ、計29項目の手術において適用となるなど、導入後速やかに幅広い分野で運用が可能であるため。

なお、他の機種は泌尿器科において1項目での保険適用である。

4. 購入費用

●手術支援ロボット装置 一式 約3億9,000万円

導入にあたっての課題



da vinci xi サージカルシステム

1. 川口市立医療センター内での術者の確保

当該機器を安全に取り扱うためには、技術と経験を積んだ術者が必要となってくるため、優秀な人材の確保、若しくは所属医師を対象とした研修体制の充実が必須である。

2. 手術の件数調整

当該機器の導入直後は、試行的な運用にとどまり、それまでと比較して手術件数の減少となる可能性があり、これは収益減に繋がる要因であることから対応を検討する必要がある。

3. 手術室の設置場所の確保

物理的な問題として、手術室の限られた面積の中で、当該機器をどう設置するか検討を要する。

4. 予算措置

当該機器は高額な医療機器であるが、本体に加え、先端の鉗子部は消耗品であり、継続的に費用負担が発生するため、財源の確保・予算措置の時期について財政部局との調整を要する。

5. 費用対効果

前述のとおり、当該機器導入の初期費用とその後の維持補修費は高額であることから、導入の意義・効果を検証する必要がある。

現在、済生会川口病院でも、手術支援ロボットの導入がなされており、市民の命と健康を守る川口市立医療センターへの、いち早い導入が待たれるものです。引き続き、強く要望して参ります!!